

# Fitness Business

HEALTH & FITNESS ASSOCIATION 『Club Business International』 オフィシャル提携誌

フィットネスビジネス

No. 133  
July-August 2024

## 特集 成功するフランチャイズシステム



Hit Item ◎ 商品研究

### 会員管理

Leadership ◎ トップインタビュー

株式会社ファクトリージャパングループ 代表取締役社長 高橋健介

Club Business Int'l ◎ 世界の動き

グループエクササイズ繁栄の課題

Principle ◎ 信条

スポーツクラブ NAS 株式会社 代表取締役社長 黒田雅実

Academia ◎ 研究から見た健康産業

学校部活動の地域移行、その現在地と課題



# コンディショニング日和

コンディショニングづくりの目的や手法は多種多様。会社やクラブを代表する方は、日頃からどのような形でコンディショニングづくりに励んでいるのだろうか？ コンディショニングづくりを自社の運営に、どのような形で活かしているのだろうか？ 社員やスタッフも知らない素顔に、Fitness Businessが迫ります。

株式会社ハイパーフィットネス 代表取締役 **亀田政幸氏**  
1963年5月24日生まれ

## 自クラブへの思い入れ 利用することで得られる進化の筋道



多いときは週に3～4回ほど、ミーティングへの参加も兼ねて、自社のクラブでコンディショニングづくりに励んでいます。1時間ほどジムエリアでトレーニングを行い、プールで泳いだり大好きなスパでリフレッシュしたりもしています。企画・開発段階から携わり、自分が造ったので、各クラブに色々な思い入れがあります。そこで多くのお客さまがご利用されている姿を直接目にするのは、仕事へのモチベーションにもつながります。また、ニーズやトレンドといった変化を、直に感じ取ることができ、とても良い機会になっ

ています。利用時にはお客さまの立場になって、清掃が行き届いているか、スタッフがどのようにオペレーションをしているかなどもチェックするようにしています。そこで改善すべきことに気づき、反省することが多々あります。そこで出た課題や反省点をスタッフに共有し、改善方法や今後の進化を考えて前進していくことは本当に楽しくて有意義な時間です。また、今後のマーケティングや開発に活かすこともできる。まさにフィットネスはビジネス上も欠かすことができない、重要な日常となっています。

## 健康で充実した日々 環境と周囲へ感謝の想い



週末は、シニア年代のチームに入って、真剣にかつ楽しみながらサッカーをプレーしています。リーグ戦やカップ戦に参加していますが、この歳になってもサッカーやチームプレーから学ぶことは多い。試合前は緊張することも多いです。本気で勝ちたいと常々思っています。同じチームのメンバーには、中学校や高校のライバルチームの同級生や先輩・後輩もいます。勝てば心から嬉しいし、負けたりミスをすれば数日間落ち込んだりすることもあります。そうした感情を持つことも含め、サッカーをすることが貴重

で素晴らしい体験、活動となっています。月に1～2回は、海へサーフィンにも行っています。自然の中にゆったりと身を置くことで、とても心がリフレッシュされ、本当に良い気分転換になっています。サッカーやサーフィンへの取り組みは、日常フィットネスを行う良いモチベーションにもなっています。良いコンディションを保っていることは、ビジネスにおいてとても重要だと感じています。こうしたつながりのなかで、健康で充実した日々を送れている環境と周囲の皆さまに、心から感謝しています。

## 新しいニーズに応えられる進化を スタッフと共に



コロナ禍の影響もあり、フィットネスに対するニーズや競争環境は大きく変化しました。過去の成功手法は役に立たなくなり、当社のような総合型クラブやジム・スタジオ型クラブは苦戦が続いています。したがって、取り組むべきことはコロナ禍前への回帰ではなく、新しいニーズに応えられるクラブに進化させていくことと考えています。先行き不透明な時代のなかで進化を続けていくためには、自クラブの強みをテコとして、様々な施策にトライ&エラーを繰り返して取り組んでいくしかない。もちろん失敗や困難も多

いだろうし、地道な努力も必要となってくる。しかし、とてもやり甲斐のある環境です。また、待遇面を整える良い時期だと思っています。社員のモチベーションを上げられるよう、強化も図っていききたい。当社らしいユニークな方法を積極的に展開し、いつも新鮮なニュースに溢れるクラブを全社一丸になって創っていききたいと思っています。自分自身は還暦を過ぎ、経営の第一線にいることの終焉も見えています。残りの時間を大切に、フィットネスビジネスにおいて、悔いなく完全燃焼を目指したいと思っています。